

## ナショナル・デー祝賀レセプション あれこれ

川原 英一

(外務省参与・和歌山大学客員教授)

7月上旬、駐日エジプト大使御夫妻から御招待を頂き、同国ナショナルデー・レセプションに出席した。ナショナルデーを祝う行事は殆ど全ての大使館で行われる。過去、在外勤務した国では、どこの国の大使からのご招待でも、必ずと言ってよいほど出席していた。



今も記憶に残るのは、グアテマラに勤務したおり、米国大使館では、昔、TV でみた「ミッション・インポッシブル」に出演した俳優のシドニー・ポワチエを思わせるような風貌の米大使の御意向を反映したのだと思うが、ジャズに関係の深い米国の都市を毎年テーマにして、大がかりな生バンド演奏があり、併せて美味しいハンバーグ料理が供されていた。

大使館によるナショナルデー行事は、相手国の事情に合わせて、ナショナルデー当日ではなく、それ以前に行われることが多い。日本の場合、現上皇さまが陛下でおられた時期は、天皇誕生日の12月23日がその日である。しかし、この頃、長期休暇の期間に入っている国も多く、遑って開催する機会が多かった。

グアテマラで勤務した当時は、11月末から12月初めに同行事を主催していた。12月に入ると、政・財界、政府トップの方々は、首都には不在のことが多いとの事情があったためである。手狭な公邸で行うのは無理なので、4百人から5百人が集まる会場として、行事に相応しいサービスを提供するホテル会場を早めに抑えておく必要がある。そうした会場は限りがあるので、下見をした上で、半年以上前に予約を入れていた。

日頃のお付き合いを大切にしていると、年々、喜んで参加して頂ける方が多くなって来る。数が多いので、一人の公邸料理人だけでは対応できないので、ホテルが提供できる料理との組み合わせになるので、事前の打ち合わせや料理の味見の機会も必要となる。

当日は、日本料理や日本酒の試飲コーナーをアレンジしてもらい、数多くのゲストの方々に喜んで頂いた。また、日本に関連した企業製品のブースも設けた。挨拶には、現地の方に馴染みのある著名人、事柄を織り交ぜながら、同時に、多くの方々の御尽力により、日本との良好な関係が築かれてきたことを具体的にお伝えしていたように思う。

さて、

レセプション会場の駐日エジプト大使館（代官山駅近く）には、開始予定の午後 6 時半には既に多数の方々が参集されており、レシービング・ラインでお会いした大使による祝賀挨拶も早めに始まった。



両国国歌に続き、モハメド・アバクル大使からは、エジプトは国際海運の一大拠点として重要な役目を果たしてきており、来年は日本が協力中の大エジプト博物館（GEM）がオープンするのを心待ちにしているとの御発言があり、元外務大臣である河野太郎デジタル大臣からは、同じ価値観を有する日本とエジプトが、法に基づく国際秩序の維持と持続可能な発展に共に協力していくことを期待する、ウクライナへのロシア侵攻により小麦・穀物の輸出が停止して、食糧輸入に頼る両国は被害を受けている、来年、エジプトを私的に是非訪問したいと御発言があった。最後に、山田外務副大

臣から、日本は、インフラから教育・文化まで広範な分野での協力をしてきており、今や両国は戦略的連携関係に進化しているとの御発言があった。

大使館建物内にはツタンカーメンのレプリカなども展示されており、興味深く、又、美味しいエジプト料理のbuffetも楽しませてもらった。ゲストが続々と来られ、会場が混雑する中、早めに退出させてもらった。エジプト大使には、別途メールで御礼を述べさせて頂いた。

エジプトのナショナルデーに出席しながら、大使御夫妻、館員・職員、受付やケータリング・サービスなどの気配りなどが目にとまり、また、大使夫人がゲストを気遣いされている様子も垣間見え、自分達の過去の経験に照らし、懐かしさも感じた。

（令和 5 年 7 月 7 日記）